

---

# 仮面ライダー000外伝/Nocturne Story

神狼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーOOO外伝/Nocturne Story

### 【Nコード】

N9868S

### 【作者名】

神狼

### 【あらすじ】

異世界から来たネオグリード。そして、ネオグリードと同じ世界から来訪した少年と新たな仮面ライダー。交わるはずの無い存在同士が交わった時、世界に大いなる混乱と深き欲望を生み出すであろう。

### 警告

仮面ライダーオーズにオリジナルの展開を加えた二次創作作品です。内容が中二+投稿者のグダグダな文章力で読み苦しい小説になって

いる可能性がありますが、それでもいいと言う器が広く、心優しい、  
お方はどうぞぞ ( ) ( )

## プロローグ

2011年 異世界の日本にて…

？「お前、裏切ったのか！！？人間を…。」

グリード「フンッ！我らは決して消える事も無く、必要最低限以上の欲望を持ち続ける人間に諦めが付いた…ただだぁッ！！」

対立するグリードと仮面ライダー…。そして、グリードの強烈なキックを受けた、仮面ライダーは…

仮面ライダー「ゲアッ…！！」

後退りをしながら、変身を半強制的に解除された…。

グリード「どうやら、これでトドメらしいな。」

少年「…クソッ…！う…ウワアアアアッ…！！」

裏切られた絶望と勝てる見込みの無い悲しさ、悔しさと言った感情に染められた少年が立ち上がった時…

ピカアッ！

グリード「何だこれは！！？もしかして、アイツと反応して、体内のコアメダルが光っているのか！？」

その光はやがて、少年や周囲にいた全てのグリード達を包み込み、光が消えると、その周りには誰もいなかった…。

少年「此処は…何処なんだ…？？」

バタッ

… 数週間後 2011年 日本にて

比奈「映司くん、ゴメンね…。買い物一緒に付いて来てくれて。」

映司「気にしないで、比奈ちゃん。どうせ、今日は特にする事も無いしっわ。」

比奈「じゃあ、後でお茶しない？私が奢るから。」

映司「有難う。比奈ちゃん！」

映司はその言葉に歓喜した。しかし、この時は映司はまだ気付いてはいなかった。ビルの上から眺める異世界のグリード達の存在を…。

水生系グリード「結局、この町もあの世界とは変わらないみたいね…。」

昆虫系グリード「そうみたいね。ホント、ガツカリ…。」

計量系グリード「じゃあ、誰が先にヤミーを生む？」

犬系グリード「俺から行くぜ！異論は今回だけ、認めねえ！！アイツも今わいないみてえだしなあ！」

そう言つて、メダルを適当に見つけた人に向けて、2枚投げつけると、その人間からヤミーが分離され、誰にも気付かれずにその場から去った。

犬系グリード「後はちょっと、待つだけ…。」

数十分後

映司「ホントに有難うね。比奈ちゃん…！」

比奈「嫌、良いよ。今日、買い物に付いて来てくれたお礼だから…。」

「

そして、ふと映司が別の方向を見たその時だった。

映司「ん…?」

比奈「どうしたの?映司くん…?」

映司「ゴメン…!ちょっと、行く所が出来たみたい!!」

そう慌てながら、映司は喫茶店を後にして、走り去っていった。

映司「アंक!?!?」

アंक「遅えぞ!映司!」

映司「あれってヤミーだよね…?」

アंक「ああ…だが、誰も気付いてないってのが、普通のヤミーと違う所ってところか…!」

映司「そうみたいだな…とにかく、急ごう!」

そして、曲がり角を突っ切った瞬間、そこには先程までにいたヤミーが立ち止まっていた。

アंक「コイツ…成長する気か!?」

ヤミーの包帯が溶け出すと、中から犬のようなヤミーが現れた。

アंक「見た事ないヤミーだな…。とりあえず、変身しろ!!」

映司「分かった…。」

映司はアंकが徐に渡したメダルを受け取ると、メダルを入れ、オースキヤナを手に取り、スキャンした。

映司「変身！」

「サイ、トラ、タコ！」

ヤミーが此方に向かって走る中、<sup>オーズ</sup>000は亜種形態のサトラタへと変身した。

## 第1話 異世界と少年とノクターン

軽量系グリード「この世界にも、仮面ライダーがいるだと!!!?」  
昆虫系グリード「何なのアレ! 私たち聞かされてないわ…。」

犬系グリード「チツ…厄介だな。だが、面白そうだし、俺も行ってくるか!!」

遠吠えを叫んだ後、犬系のグリードはビルから飛び降り、オーズと自らが生み出したヤミーがいる場所へ向かって行った。

カザリ「何あれ…?何か面白そうな事、起きてるみたいだね。」

オーズ「はあっ!!」

オーズは頭突き、引つ掻き攻撃の連打を与え続けると、敵から徐々にセルメダルを落とさせた。

オーズ「これだけあれば、メダシャリバーが使える!」

メダシャリバーにヤミーが落としたセルメダルを3枚、入れると、すぐさまヤミーを斬っていった。

オーズ「これで、終わらせる!」

「トリプル! スキャンングチャージ!」

オーズキャナーにメダシャリバーをスキャンさせ、敵を斬ろうとしたその時…

犬系グリード「させるか!!」

巨大な竜巻がオーズを吹き飛ばし、目標を反らさせた後、下方からキックを受けた。

オーズ「グアツ！痛たた…。って、グリード!？」

犬系グリード「ご名答…。まあ、その前にコツチも聞きだいたい事がある。仮面ライダーが何故、この場所にいる…?」

すると、数秒後に背後から笑い声が聞こえ…

カザリ「代わりに教えて上げるよ…。それは、この世界にもグリードがいるからだ。」

犬系グリード「貴様…何者だ…?」

アंक「カザリまで…? 絶体絶命ってヤツだな…!」

カザリ「僕の名前はカザリ…。君と協力しようとしているだけだ。宜しく…。」

カザリが手を差し伸ばすと、犬系グリードが笑いながら、その手を繋ごうとした時…

カザリ「グアツ…!!これは…何のつもりだい…?」

手を差し伸ばたと思っていた、犬系グリードの腕はカザリの体を貫通していた。

「フンツ！信用できん輩だからな…。信用出来ない奴は例え、グリードでも、我が敵と見做す。」

そう言うと、貫通させた腕を離した。その手の中にはカザリのチーターメダルが入っていたが、犬系グリードはそれを投げ捨てた。

カザリ「ウツ！なる程…そういう事ね……。」「  
犬系グリード「なんなら、今此処で潰してやっても、良いんだぜ…？」

カザリ「それだけは御免だね…。また何処かで、会おうね…アंक…！」

そう言うと、カザリはフラつきながらも、逃げ去った。

犬系グリード「チツ…逃げられたや！まあ、これでお前に集中出来るって訳だ…！」

その瞬間、鋭い爪でオースを攻撃。更に竜巻を再度、発生させて、吹き飛ばした。

オース「ウワアツ！」

アंक「映司イイツ…！」

？「やっと、見つけたぞ…ゴータツツ。」

その声が聞こえた時、犬型のグリードの動きが一瞬、止まった。

ゴータツツ「な……！あの聞き覚えのある声、まさか！？」

犬型グリッド（ゴータツツ）が背後を振り返ると、そこにはボロボロの服を着た少年が立っていた。

少年「その、まさかだよ……！！」

ゴータツツ「何故、貴様が此処に！！？」

少年「だろつなあ……。まあ、俺だって最初はビックリしたよ……。けど、ノワールに教えられて、此処が何処か……そして、やるべき事が分かったよ……！！」

オーズ「君……ここは危ないから早く逃げて……！！」

少年「ボロボロなのに、そんな事言われても、余り説得力ありませんよ。それに、俺は貴方と同類ですから……！！」

そう言った彼は、何処からかベルトを取り出すと、腰に取り付け、3枚のメダルをベルトに入れた。

オーズ「同類って、まさか……！！」

少年「そういう事です。変身……！！」

「ジャツカル、オリックス、イーグル！ジャオール！ジャ、ジャオール……！！」

女性のような音声で、歌が鳴り響いた。そして、歌が鳴り終わると、

少年は仮面ライダーへと変身していた。

オーズ「見た事無い、仮面ライダーだ…。」

ゴードッツ「この世界の仮面ライダーと、ノクターンか…。今回だけ、この場は逃げるのでしょうか…！」

後退りをしながら、そう言うと、ゴードッツは空高くまでジャンプして逃げ出した。

ノクターン「逃げられたか…。まあ、良いや…！そこにヤミーもいる事だしね。」

ノクターンは犬のヤミー目掛けて走り、ウルフボディの腕が光り出し、腕にあったウルフクローが展開された。

ノクターン「ハアッ！！！」

鋭利なウルフクローが敵を引っ掻く。それと同時に、次第に引っ掻かれたドッグヤミーからメダルが飛散して行く。

ノクターン「これで、トドメとしようか…。」

手にしたワールスキャナーをベルトにスキャンさせると

「ジャオール！スキャニングチャージ！！」

と、叫ぶ女性の音声が鳴り響くと、ノクターンは空高くジャンプし、ジャンプするとイーグルクローが展開され、鳥の足を思わせるよう

な形になった。

ノクターン「ジャオールキック…！」

そのセリフを吐き捨てると、ノクターンはライダーキックで、ヤミ  
ーを倒した。

ノクターン「後は一匹かな…？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9868s/>

---

仮面ライダー000外伝/Nocturne Story

2011年10月9日01時35分発行